

7月1日から21日にかけて、7名の職員がいわき市に派遣されます。
1週間ごとに2~3名、
罹災証明の発行作業の応援に。

いわき市は、福島第2原発の南。茨城との県境にありますが、
住居被害が2万5000件以上あるところ、6割しか発行できておらず
職員総動員でもなかなか間に合っていないとのこと。

罹災証明は、単に「届け出」だけでは発行できません。
届けの内容について、
例えば、住宅であれば位置や規模、課税内容なども確認しなくちゃなりませんし、
これらの確認作業は、行政データのそれぞれにあたらなければならないので、
現地に出かけて、実態調査も行わなければならないんです。

さまざまな被災関係の申請のもとになる証明書ですから
非常時なんだから簡単に…というわけにもいきませんから、
慎重かつ迅速に、でしょう。

派遣費は、西尾市負担で行われます。
一般市民は行けないけれど、その分も、しっかり応援してきて下さいってことですね。

また、保健師も1名1か月、派遣されるとのこと。
住民の被災状況の把握・健康管理に、現地では被災した保健師さんたちが
不眠不休であたっているとききます。
1名といわず、もっとたくさん、チームでの派遣を検討してもよいのでは？！
これから心のケアも最重要課題、長期戦も間違いない課題です。
合併で、保健師さんの数も増えたことですから、
うまく調整してみてもはどうでしょう。
こうした経験は、被災地支援だけにとどまらず、わたしたちへの実地教訓にもなります。

ともあれ、復興の一助を期待しています。
いずれにしても、頑張ってきて下さいとエールを送ります。